令和５年度第２回北海道立図書館協議会　議事録

日　時：令和５年１２月１５日（金）９：２０～１０：４０
会　場：北海道立図書館　研修室
出席者：協議会委員８名、道立図書館職員１１名
傍聴者：０名

議事等
１　議題
（1）令和５年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）
（2）その他

議事録　（○～委員の発言　●～道立図書館職員の発言）

●（岡部真希管理課長）
議事進行については、河村会長にお願いしております。
それでは、河村会長、よろしくお願いいたします。

○（河村芳行会長）
おはようございます。朝早くからお集まりいただきまして誠にありがとうございます。天候が気になる時期ですけども、今日は天気も良く、とても良かったと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
本日の議題は、今、御説明がありましたように、令和５年度北海道立図書館業務の実施状況についての中間報告と、もう１点がその他となっております。これから議題１の令和５年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）について御説明いただきますけれども、資料１、資料２を用いて説明していただきます。お話によりますと、資料１が概要版となっておりまして、資料２が本編となっています。資料２の下線部分が資料１の概要版にまとめられていると、そのように伺っております。資料１を参照しながら説明を聞いていただければと思います。
それでは、図書館の方から説明をお願いいたします。

●（桑原裕子利用サービス部長）
議題　令和５年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）について

資料１　令和５年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）【概要版】説明
資料２　令和５年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）　説明

○（河村芳行会長）
ありがとうございました。
今、４つの各施策目標における主なポイントに基づきまして、中間報告をしていただきました。これから皆様方の御意見、御質問等がございましたら伺いたいと思いますが、まずＩの「道民のくらしや仕事に役立つ図書館」につきまして、何か御質問、御意見等がございましたらお願いいたします。

○（林哲哉委員）
林です。よろしくお願いいたします。
「道民のくらしや仕事に役立つ図書館」ということですが、よく環境格差ということが言われます。北海道は広いので、図書館、図書室もないような町村が多く、環境格差があるというような報道も読んだことがあるのですが、今、電子書籍が出てきて、そこにアクセスすることでそういう所の環境が改善されるように思います。出張登録というお話がありましたが、電子書籍を利用するに当たっては、登録をすることによって利用できるようになるということなのでしょうか。その点を教えていただきたいと思います。

●（原美代子一般資料サービス課長）
道立図書館の電子図書館サービスの利用についてですけれども、まずはその前提となる道立図書館の利用登録をしていただく必要があることから、登録作業を出張利用登録会で実施しているという状況です。通常は、インターネット上で仮登録という形で申し込んでいただいた上で、利用者カード用の返信用封筒を入れて送っていただき、当方から遠方の利用者にカードを送るというような遠隔者向けのサービスを行っております。ただ、どうしてもそういう作業が難しい方がいらっしゃったり、高校から学校単位で使いたいというような御意見もあったりしたことから、出張利用登録会という形で行っています。９月に小樽でも開催していますが、小樽市では道立図書館の電子図書館サービスを市民の方に使ってもらいたいという意向をお持ちで、市の図書館で利用登録会を実施したいという要望があったことから行っているものです。何分、今年度始まったばかりの取組ですので、手探りのところもありますが、これまで開催してきた中で出てきた留意事項などをフィードバックした説明資料を作り、それ

を使って他の所でも利用登録が行えるような広報につなげていきたいと考えています。

○（林哲哉委員）
分かりました。ありがとうございました。

○（河村芳行会長）
ありがとうございます。
今、出張登録会の話が出ましたけれども、ほかにそれに関連して、御意見等のある方いらっしゃいませんか。

○（河井裕司委員）
北海学園大学の河井でございます。１０月２４日に、本学にお越しいただきまして、登録会を開催していただきました。ありがとうございます。
この登録会を通じて、私は非常に重要なことだと思ったのですが、本学は北海道内の自治体に就職したり、あるいは教員となって道内を異動して回ったりという卒業生が多いわけですけれども、札幌だと図書に関する環境は非常に恵まれている一方、先ほど林委員がおっしゃったように、あまり環境が整備されていない自治体があったり、書店がない市町村があったりします。そういった地域では、このように気軽に見られる電子書籍の良さが実感できると思うのですが、そのことを学生自身は、在学中はあまり気にしていません。札幌では全然不自由を感じておらず、卒業して初めて気が付く部分もあるのではないかと思うのです。そういった意味では、今回登録会をしていただきまして、できれば４年に１回といったように、学生が在学している間、そのような機会をいただけるとありがたいと思っています。
本学は、工学部が別のキャンパスにあるのですが、実は今回、豊平キャンパスで開催するに当たって、工学部の方でもできないだろうかという意見もありました。ですから、そういったことで言いますと、是非、２年に１度ずつくらいやっていただけるとありがたいと思っています。そこにもう一つ、これは要望なのですけれども、私も登録させていただいて、電子書籍を少し拝見しましたが、今後、アクセス数を増やしていかないと、登録者の増加に伴って閲覧が混雑するようになり、見たい書籍が見られないという状態にもなってくるのではないかと懸念されますので、その辺は是非、御留意いただければありがたいと思っています。

●（桑原裕子利用サービス部長）

ありがとうございます。

北海学園大学の方では、１日だけで２５０名近くの学生の方に御登録いただきました。皆さん非常に関心が高く、しばらく並んで待たなければならないような状況もあったと報告を受けています。工学部の方でも開催できたらいいですし、こちらとしても広げていきたい取組ですので、今後も相談させていただきながら実施していけたらと考えています。ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

今、電子図書館サービスについては、道立図書館の方で旗振りをしていただくということで非常に大事な事業かと思いますけれども、今、登録会は日を限って登録機会を設けるという形になっています。最初ということで、それでスタートしていると思いますけれども、今後、各自治体の図書館や大学で常時登録ができて、各図書館からまとめて道立図書館とやり取りするような委託の方法を制度化するといったことを検討されてはいかがかと、お話を伺っていて感じた次第です。

ほかに、皆様、御意見等ございませんでしょうか。

○（吉田雅代委員）

質問ですが、出張登録会を行うに当たって、例えば「この学校とこの学校」というようにある程度限定して案内を出しているのか、それとも一斉に、「今月は大学」というような形で出しているのかが気になりました。資料には岩見沢東高校が掲載されているのですが、江別の高校は載っていません。地元の高校から申込がなかっただけなのかもしれませんが、案内の段階でどうだったのかということを疑問に思ったので、教えてください。

●（桑原裕子利用サービス部長）

御質問ありがとうございます。

去年の暮れ辺りから大学とやり取りをしてきたのですが、少しずつ広げていこうということで、今年初めて出張登録会を始めたのですけれども、まだ一斉に募集を行うといった形にはなっていません。お問い合わせいただいた所やつながりのある所で、まずはどんな方法、どんな課題があるのかということを確認させていただくために、いくつかの所で開催させていただいているという状況です。今年は、大学や市立図書館で開催したり、学校での一括登録を行った

りしましたが、ようやく色々なパターンの事例がつかめてきたところなので、下半期の課題ということにもつながりますけれども、これから一律に案内できるような資料づくりをして、どのような形で広めていくのがよいかということを検討して、実施していこうという段階です。

○（河村芳行会長）

はい、ありがとうございます。

電子書籍に関しては、市町村の住民の皆さんもかなり関心が高いようで、各市町村の方も予算取りなどで大変御苦労されていると思います。今、道立図書館の方で新しい事業としてスタートしていますので、これからも、非来館型サービスということで充実させていっていただければと思っています。電子図書館の広報のあり方というのも、少しずつ色々な図書館で導入されてきていることから問い合わせもあるかと思いますので、力をいれていただければと思います。

道民のくらしや仕事に役立つ図書館の所で、ほかにいかがでしょうか。

○（加賀学委員）

北海道町村教育委員会連合会から出席しています、十勝管内・池田町教育委員会の加賀と申します。よろしくお願いいたします。

それぞれの項目で指標が定められていますが、この目標値はどのような考え方で定められているのかということをお伺いしたいのと、目標指標の中の新規利用登録者数は、実績値が目標値を既に上回っていますけれども、これは今後目標値を見直すという理解でよろしいでしょうか。

●（桑原裕子利用サービス部長）

ありがとうございます。

目標指標の決め方についてですが、推進計画で策定した指標をそのまま転記しており、５年間の推進計画の進捗を見るということで掲載しています。ですので、現状値が令和３年となっていたりするのは、推進計画を作った時の目標値に対する現状値ということでこのように記載しています。ほかにも実績値が目標値を超えている所がいくつかありますが、それについては毎年の運営計画もありますので、そちらの方で見直しをかけていくということになろうかと思います。

○（加賀学委員）

ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

では、Ⅱの「地域を支える『知の拠点』としての図書館」の方に移りたいと思います。資料の収集・保存の所です。こちらの方でも１番目に電子図書館サービスのコンテンツの充実ということで、電子書籍に関する内容が含まれていますが、何か御意見、御質問等ございませんでしょうか。

○（小澤聡委員）

専門図書館協議会の小澤です。今日はリモートで参加させていただいております。

電子資料の関係での質問ですけれども、「ＫｉｎｏＤｅｎ」の書籍を購入されているということは理解しているのですが、私の所属している道総研（北海道立総合研究機構）では、ＰＤＦなど様々な形で資料や報告書等を掲載しています。例えば、道庁の様々な会議や専門家会議などの資料があるのですが、そのような資料の取扱いはどのようになっているのでしょうか。

●（一戸泰北方資料サービス課長）

御質問ありがとうございます。

最近はＰＤＦで報告される資料が増えてきているという認識を持っています。今のところ、このような資料の収集について、ルートというものはありませんので、恐らく各機関のホームページで公開されているのではないかと思います。利用者の方がどのように取りこぼしなく、そうしたＰＤＦやネット上にあるコンテンツにたどり着けるよう結び付けるかということが、図書館として大事な役割ではないかと考えています。もし当館の機能を利用するとすれば、北方資料デジタルライブラリーの中にＰＤＦやＥＰＵＢ（イーパブ）といった電子書籍のフォーマットで掲載するということは考えられると思いますが、現状ではあまり進んでいる状況になく、今後、検討が必要なところではないかと考えているところです。

○（小澤聡委員）

ありがとうございます。

ちなみに、この図書館協議会の資料は、道立図書館のホームページに掲載されていることは分かりますが、例えば、書誌登録が行われていて、検索すると出てきたりするのでしょうか。多分、利用者の方が資料を探す時に道立図書館

のＯＰＡＣを使うと思うのですが、ＯＰＡＣで探した時に、こういった資料がデータベースに登録されていないとしても、他の機関のデータベースに飛ばしたり、ＵＲＬだけでも登録しておいたりするとうまく探せるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

●（桑原裕子利用サービス部長）

最初に「ＫｉｎｏＤｅｎ」のお話がありましたが、「ＫｉｎｏＤｅｎ」の方で閲覧できる資料は購入しているコンテンツのみとなっています。拡張機能で、自分の所の資料をデジタル化したものを載せる機能も併せ持っているとは聞いていますが、当館では、北海道関係の資料については北方資料デジタルライブラリーがありますので、そちらの方に載せています。ただ、先ほど一戸の方からもありましたけれども、数多くの資料が今、ＰＤＦなどでネット上に掲載されていて閲覧できる状態になっていますが、それを全てアーカイブしていくという形には、なかなかなっていないというのが実情です。本来であれば、そういったところも取りこぼしなく集められればよいのでしょうが、入れ替わりの激しいインターネット上のものを保存しておくというのはなかなか難しいことでもありますので、今後、保存やアーカイブ化ということについては検討が必要な部分だと思います。協議会の資料については、現在、ホームページに掲載して皆様に見ていただけるようにはなっていますが、それを利用して、検索できるというところまでは行っていないというのが現状です。

○（小澤聡委員）

ありがとうございます。

なかなか大変なことなので、今後検討していただければと思います。発信側の機関が少し心許ないところがあり、ホームページで出したからと言って、いつまでも残っているとは限りませんので、重要な資料は図書館が保存するのが良い形ではないかと思っていまして、その辺も少し検討していただければと思います。ただ、すぐに具体的に取り組むのはなかなか難しいことと理解しています。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

重要な資料について、図書館の方でのアーカイブ化が必要というお話でした。利用者の方としては、図書館のホームページを活用するのとともに、まずはインターネットで検索をして、それから図書館にという流れになってきているの

ではないかという気がするのですが、今お話がありましたように、消失してしまったりするということもありますので、大切なものは図書館の方できちんと整理していくとよいのではないかという御指摘でした。どうぞよろしくお願いいたします。

今、Ⅱのところで、「知の拠点」の図書館ということでお話しいただいているのですが、ここも先ほどのＩとつながっていて、電子図書館のような内容も出ています。ほかにも、教育研究所との連携ということで、お話しいただいたようなこともあるのですが、ほかに御意見、御質問等ありますでしょうか。なければ、また後で全体を通してということでも構いませんので、Ⅲの方はいかがでしょうか。多様な情報を発信し続ける図書館ということで、今、少しお話がありましたけれども、インターネット等による情報提供ということとも関わってきます。何かありましたらお願いいたします。

○（林哲哉委員）

国立国会図書館レファレンス協同データベースについて記載されていますが、これは具体的にどのようなもので、どのように活用されているのか教えていただければと思います。

●（一戸泰北方資料サービス課長）

レファレンス協同データベースというのがございまして、国立国会図書館が運営しています。国立国会図書館は知の情報拠点と言われている図書館なのですが、各図書館に寄せられる同じようなレファレンス事例を全国的に集めて、一つのデータベースに登録しており、「そこを見れば、様々なレファレンスに対し、どのような資料を用いて回答しているかということが分かるので、非常に良いものができるのではないか」ということで始められたものでございます。当館も比較的早い段階から参加しておりまして、こちらの方を検索していただくと、道立図書館で手がけたレファレンスも、ほんの一部ではありますが検索することができるようになっています。それから、国立国会図書館ではこちらのデータベースをＧｏｏｇｌｅにも連携させておりまして、Ｇｏｏｇｌｅで検索するとレファレンス協同データベースの事例が引っかかって、ひいては「道立図書館でこういうふうな事例を行ったことがある」というようなことが分かるようになっています。同じように全国の各県立図書館の郷土資料や地域情報などといったレファレンスも、こちらの方で検索することができるような仕組みを目指しているのではないかというところでございます。

○（林哲哉委員）

分かりました。ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

はい、ありがとうございます。

今、国立国会図書館で構築しているレファレンス協同データベースに、道立図書館としても早くから参加していて、今年度に関しましては、資料によると３５件を登録したと記載されています。同じような質問について、今まで、各館で図書館員の方がレファレンスサービスとして行ってきたかと思うのですが、今の時代は、既に同じような質問がされたものがデータベースになっているということは大変ありがたくて、国がそういうことを、音頭を取って行っているということです。国が全国の図書館を対象にそういうことを行っているということですので、道立図書館は道内１７９市町村の図書館を導いていただければなと思っております。

ほかございませんでしょうか、Ⅲの所。まだ御発言いただいていない方、いかがでしょう。ここの箇所でなくても構わないので、後でまた御質問、御意見等いただければと思います。

○（吉田雅代委員）

先ほど、ゴールデンカムイの特集をされた時に、それを見て来館された方がかなりいらっしゃったというお話があったのですが、例えば、そういったものをＳＮＳで発信した後に、「ゴールデンカムイもすごく好きだけど、今人気の別なものも特集してくれませんか」といったような投げかけはあるのでしょうか。そういうのをお互いに使っていって、例えばＳＮＳを見た方から「今人気のこういうのはないのでしょうか」といった話が来たら、それに対して、「それでは、今度、特集するから来てください」といった感じで双方向のやり取りをしていって、若年層も来てくれるようになったら理想的ではないかと思ったものですから、そういう投げかけがあるのかどうか教えてください。

●（一戸泰北方資料サービス課長）

非常に好評だった展示ということで、そこから是非、その後につなげていってほしいという御要望かと思います。今は、そういった投げかけを行ってはいませんが、今後の御意見として承りたいと思います。

●（桑原裕子利用サービス部長）

追加で少しお話しさせていただきます。今、多くの方にフォロワーとして道立図書館のＳＮＳを見ていただいてはいますが、公共施設のＳＮＳには匿名の色々な情報が入ってきてしまうというような危険性もありますので、こちら側から双方向でフォローするという形にはなっていません。御指摘のような要望が入ってくることはあまりありませんが、展示を見にいらっしゃった方の中には、友達のＳＮＳがきっかけとなって、初めて道立図書館に足を運んでいただいたり、北方資料室にゴールデンカムイだけでなく、色々なマンガもあることを知っていただいたりという方々もいらっしゃいます。ＳＮＳでのやり取りには様々な側面がありますけれども、例えば、何か意見などがあったら御意見箱に入れていただくよう促すなど、様々な形で利用者の声を拾えるような工夫も今後考えていく必要があるのではないかと考えています。ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

ほかございませんでしょうか。

では、Ⅳの方に入らせていただきます。「ネットワークでつながる図書館～市町村・学校や関係機関との連携～」という所で、いずれもⅠ、Ⅱ、Ⅲと関連してきますが、何か御意見、御質問等ございませんでしょうか。

○（林哲哉委員）

今後の方向性の所で「効果的な広報」ということが書かれていますけれども、少し前の北海道新聞で、道立図書館と効果的に連携している高校の事例を取り上げた記事があったのですが、このような取組を新聞等で読んでもらえば、道立図書館の利用価値というのがますます理解されるのではないかと思いました。今後、「効果的な広報」について、どのように取り組んでいこうと考えておられるのか教えていただければと思います。

●（桑原裕子利用サービス部長）

御質問ありがとうございます。

今後、様々な所で効果的な広報を行っていかなければと考えているところです。一つは、今、御指摘がありましたように、報道の影響力は非常に大きいと思っています。今回、出張利用登録会で偶然、新聞報道を御覧になった新聞記者の方が取材に来てくれたのですが、今日追加で御紹介した記事はデジタル版に先行して掲載された記事ですけれども、このように積極的に報道機関への投げ込みなどを行うというようなこともありますし、利用登録の促進においても、

市町村と協力してポスターを貼ってもらう、チラシを置いてもらうというようなこともあります。そのほか、去年からですけれども、道が発行している「広報ほっかいどう」で記事を載せてもらえるよう働きかけたり、道立図書館へ来て見ていただけるよう取り組んだりということもあります。インターネット上だけで見ていただくということにはやはり限界もありますので、特に、報道機関との関係をできるだけ密にして、数多く売り込みを行うというところが基本なのではないかと考えています。

○（林哲哉委員）

分かりました。私もこの協議会に関わる前は、あまり道立図書館の広報を見かけないなと思っていたのですが、協議会に参加して、少し注意して見てみると、色々な所で努力されていることが分かりましたので、今言われたような形でますます広報に努めていただけるとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

今、効果的な広報は何かということで御質問いただき、お答えいただいたわけですけれども、道立図書館のホームページを一般の市民の方々がどれだけ見ているかと言うと、今お話のあったように、なかなか少ないのではないかと思います。やはり市民の方は、自分の在住している市町村の図書館のホームページにはアクセスする人が多いのかなと思います。そこで道立図書館と市町村の図書館の役割ということになるかと思うのですが、私が今考えたところでは、やはり市町村立図書館に対する広報と言いますか、各市町村に対して道立図書館が、先ほど話しましたように、出張登録会というだけではなくて、住民に登録の機会を設けるような形でシステム化をしていくという方向で行くのが効率的なのではないかという気がしています。まずは市町村の図書館に、こういうサービスがあるということを知ってもらって、先ほどのデジタルライブラリーともつながりますし、レファレンスのデータベースともつながりますけれども、電子書籍は高価で、新聞記事にもありますように「課題は高価格」ということがありますので、市町村が住民の要求に応えられないでいるのではないかと思います。先ほどアクセス数の話もありましたけれども、普通の物理媒体と違って複数のアクセスが可能ということですので、遠隔地の住民、北海道の全住民がアクセスできるということで、電子図書館というのはこれから伸びしろが大きいのかなという気がしています。道立図書館に旗振りをしていただいて、

中心になって取り組んでいただけるようお願いしたいと思います。

ほかにまだ質問などございませんでしょうか。まだ御発言いただいていない委員の方がいらっしゃいます。お当てしてもよろしいでしょうか。お願いいたします。

○（山口朱美委員）

山の手小学校教頭・山口と申します。学校図書館協会に所属しておりますので、そういったところからも読書、図書館というところに関わらせていただいているところです。

具体的なお話ではありませんが、非常に大きくＩＣＴの方向に振れているのだということを感じます。そういう時代でもありますし、広い北海道の中で広く道民のくらしに根付いてということを考えると、こういった方法が今は本当に必要なのだということがよく分かります。そして、運営の重点として、こういった所を取り上げていくということについては、これまで、私たちも会議の中に参加させていただいて、こういう方向に動くということは理解しているのですが、やはり、強くそういった色が出てくるということを感じてしまうところでもありました。「ＩＣＴの環境から漏れるところもたくさんあるのだろうな、たくさんいるのだろうな」というふうに思ってしまいます。今、会長のお話にもあったように、地道な地域の図書館とのつながりですとか、そういうところを大事にしていただきたいところなのだろうなというふうに感じました。ＩＣＴの中でつながるということも、本当に「広く」という意味では大事なところですが、「リアルに書籍を手に取って、それを開いて」というようなところも是非、私の立場から言えば、子どもたちにさせていきたいところでもあります。

学校の読書指導というところでお話しさせていただきますと、総合的な学習の時間や国語、読書指導の時間などを使いながら、インターネットの使い方ですとか、最近は著作権の問題等もありますので、出典を明らかにするやり方、調べ学習の仕方等々を指導していきますが、一方で読書活動も推奨しましょうというところも、大きいところであります。そのような方向で、ＩＣＴの「広く」という部分と実際の読書、図書を手に取るというような部分と両立でやっていかなければならないのかなと思ったり、私たちも普段の授業の中でそのようにしていきたいなと思ったりするような感想を強く持ちました。そうなると、道立図書館の皆さん、お仕事としては北海道の図書館の図書館としての役割ですとか、国立国会図書館とのつなぎ役であるところの役割といったところを、様々な方向で今後も取り組んでいただきたいなと思いますし、私たちに提供し

ていただきたいなと思ったところです。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

道立図書館の立場ということで、役割を果たしていただければと思いますけれども、前回Ｚｏｏｍで参加いただいていました出村委員、今回、対面会議に御参加いただいていますので、一言お願いできればと思います。

○（出村好孝委員）

私どもはＰＴＡ連合会ということで、学校や子どもたちの支援、バックアップをしながら、共に進んでいきましょうという団体でありますので、その中で数々の研修会や勉強会などを行っています。その中には、読書ですとか、読み聞かせですとか、そういったものも各地区から報告があって、「私たちの地区ではどうしていったらいいだろう」というようなことで取り組んだりしています。今日は色々なお話を聞かせいただきましたが、この後、本会の会議等もありますので、今日の話を報告することによって、先ほどお話のあった効果的な広報ということにもつながるのではないかということを思いながら聞かせいただきました。ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

全体を通して、何か御意見、御質問等ございませんか。今、ＩからⅣまで終わりました。

○（加賀学委員）

今回、この中間報告というのがありますけれども、これは最終的に今年度の目標指標の達成状況などを見て、教育委員会で実施している点検・評価のように、Ａ、Ｂ、Ｃといった形で評価が付くものなのでしょうか。なおかつ、付くとすればそれは内部評価になるのでしょうか、あるいは外部の方を入れた評価になるのでしょうか。

あと２つあるのですが、「収集計画に定める重点テーマ資料の積極的な収集」の実施状況の中で「３つの重点テーマ」というのが書かれていますけれども、「３つの重点テーマ」というのは、収集計画というのがあって、そこで定められた重点テーマということなのでしょうか。

それから最後になりますが、「学校図書館を対象とした運営相談や事業の充

実」の課題の一番上で、図書館の考えている課題として、「各学校が抱える問題点・課題のうち表面化していないものを把握するため」という記述がありますけれども、把握するためのお考えは何かあるのでしょうか。

以上３点です。よろしくお願いします。

●（桑原裕子利用サービス部長）

１番目の評価についてですけれども、今回は中間報告ということではありますが、これを改めてＡ、Ｂ、Ｃといった形で評価するということは考えてはいません。成果と課題を踏まえた上で、下半期の活動につなげるというようなことになります。数値目標等については、先ほど御指摘がありましたように、年間を通じて、今度は中間ではなく最終の報告書になりますので、その時点でまた見直すというようなことはあろうかと思います。

●（小川靖子資料整備課長）

「３つの重点テーマ」についてですが、御指摘のとおり、令和５年度から９年度までの事業推進計画と合わせて、資料の収集計画を策定しておりまして、この中で課題解決に役立つ重点テーマとして、「生活の支援」「仕事の支援」「安全・安心の支援」という３つを掲げて、それを重点的に収集していこうというものになっています。また、目標値も定めているところです。

●（西岡祐子企画支援課長）

学校図書館を対象とした運営相談や事業の充実の中の課題として挙げました、各学校が抱える問題点・課題ということなのですが、なかなか私たちでもつかみきれないものがあるということを日々感じていまして、お申し込みや御相談を受けて、「なるほど、ここの町のここの図書館、学校でもお困りだったのだ」ということを知るといった現状がありましたので、このように書かせていただきました。その把握する方法についてですが、一層の連携ということを書いたのですけれども、市町村立の学校においては、その地域内の学校について御存じなのは、私たちよりも市町村の図書館・図書室、教育委員会の方でありますので、これまで以上に私たち道立図書館としては、市町村の図書館・図書室との情報交換、情報共有といったようなことが必要と考えているところです。一方、道立の高等学校等については、これまでも道立学校に対する連絡のチャンネルを使いまして、お知らせ、事業の案内などをしていたところですが、そういったことは今後も継続しつつ、学校の団体、学校図書館協会ですとか、このたび挙げている高文連ですとか、そういった学校や学校図書館に関わる団体と

引き続き、あるいは新たな何かがないかといったようなことも考えながら連携をしていかなければならないという課題意識を持っています。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

道内の情報収集ということですけれども、広報も大変ですけれども、どういうことを望んでいるのかといったような情報を収集することも、とても難しいことだと思います。今後、今御質問、御意見がありましたように、効果的な情報の収集の仕方についても御検討いただければと思います。

ほかにございませんか。

○（河井裕司委員）

Ｉの道民の仕事やくらしの「高齢者・障がい者サービスの充実」の部分です。私もそうなのですが、教育機関に勤めると、読書とか教育・研究ということで若者を対象にした本ということになりがちですけれども、高齢者・障がい者サービスの充実という部分をもっと具体的に行っていくべきではないかと思っています。多分、入院されている方などは、娯楽ということでは本が必要になってきたりするのではないでしょうか。今、コロナで面会などに行く機会は少なくなりましたけれども、大体は本を持って行ったりするというようなことがあったかと思います。入院している人たちが電子書籍にアクセスできたり、冊子を手に取って読むことができたりといったようなサービスを、もう少しできてもよいのではないかと感じていまして、具体的な取組内容として、例えば病院や施設などをターゲットにした出張サービスや登録会なども効果的なのではないかと思っています。

●（桑原裕子利用サービス部長）

ありがとうございます。

おっしゃるとおり、入院中の方などにも電子書籍は使っていただけますし、私の知り合いでも、入院中にオーディオブックを読んで大変有意義に時間を過ごせたということを言っていただいた方などもいらっしゃいます。それから、これは市町村を通じてですけれども、高齢者の方々が集まる機会に一括で登録できないかという御相談を受けて、図書館・図書室が窓口になってその方々の分を登録したという事例も出てきていますので、このような事例を紹介したりしながら、更にそういった利用にも広げていけるよう努力していきたいと思います。ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

今、御意見のあったところは、アウトリーチサービスということになるかと思います。病院とか、刑務所とか、そういったような所の内容だと思うのですが、これも道立図書館が直接行うかどうかというところはまた別問題で、各市町村が行えるような形で道立図書館が支援をするという形も考えられるのかなと感じています。現物であれば郵送サービスということで、ここの成果の所にもありますように、ゆうメールによる資料貸出サービスが初めて行われたということもありますけれども、こういったことも各市町村の図書館が実施していくという方が現実的なのかなという気がしています。そのサポートを道立図書館がどのようにしていくのかということで、今後、御検討いただくのが一番よろしいのかなということを感じました。

大分、皆さんから御意見を出していただきました。時間も来ておりますので、次の２番目の「その他」の事項に移っていきたいと思うのですが、何かありましたら御説明をお願いいたします。

●（岡部真希管理課長）

私から、長寿命化工事の途中経過について御報告いたします。

先日、建築工事の入札が執行されまして、施工業者が決定いたしました。今後、事業者や関係機関と打合せを行いまして、詳細なスケジュールを決定していく予定ですので御報告いたします。以上です。

○（河村芳行会長）

ただ今、長寿命化工事ということの御報告がありましたけれども、何か質問、御意見等ありますでしょうか。

ないようですので、これで予定されていた議題の審議は全て終了したことになります。

委員の皆様、活発に御発言いただきまして、ありがとうございました。